



海外における献血推進の実状と効果的な施策のあり方に関する研究

研究分担者

河原 和夫 (東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 政策科学分野)

研究協力者

菅河真紀子 (東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 政策科学分野)

丸山 智久 (東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 先端医療開発学講座)

研究要旨

今回は、アジアの中でも 20 代の若者が活躍しているシンガポールの献血事業について調査訪問し、献血事業体制と献血推進対策についてレポートした。

シンガポールは、全体の献血率はさほど高いわけではないが、若者に対する献血推進活動が活発で 20 代、30 代の献血が多数を占めている。国民の平均年齢が若く、高齢化していないため SNS やモバイルアプリケーションなどを利用した若者に馴染んだ戦略を駆使し、国民の献血に対する関心を高めていた。

本研究では、同国における献血推進方策を総合的に調査した。

研究目的

わが国の献血推進の在り方とその将来に向けた取り組みの未来を考えるにあたり、諸外国の献血推進の事例を理解し、その優れた部分を日本の風土に合わせて活用していくことが大切である。今回は、若い国『シンガポール』の血液事業について実態を調査し、わが国の献血推進事業に参考となる点をまとめた。

外務省の 2017 年 1 月時点の資料によるとシンガポールは人口約 554 万人（うちシンガポール人・永住者は 390 万人）（2015 年 6 月時点）であり GDP は 292,739 百万 US ドル（2015 年時点）、民族としては中華系 74%、マレー系 13%、インド系 9%（2015 年 9 月時点）、国語はマレー語であるが公用語として英語、中国語、マレー語、タミール語が用いられる。面積は東京 23 区と同程度の面積（約 719 平方キロメートル）というバックグラウンドである。また、交通は鉄道網やバス網が発達しており、産業では ICT、金融分野に強みを持ち医薬、バイオテクノロジー分野に現在力を入れている。この国としての背景を鑑みつつシンガポール赤十字社での献血推進の取り組みとその献血推進方法の特色を分析することによって、わが国での献血推進戦略のヒントを得ることを目的としている。

研究方法

シンガポール赤十字社での血液事業の献血取り組みと献血推進の方法について、シンガポール赤十字社 (Bloodbank@HSA) を訪問し献血推進担当者より情報を得た。同社の献血推進に関する包括的取り組みの説

明を献血推進部門の責任者である ROBERT TEO 氏より説明を受けた。ROBERT 氏により今回視察訪問した同社献血施設である Bloodbank@HSA (Health Science Authority(シンガポール保険科学庁)ビル内 最寄り: アウトラムパーク駅) を案内いただき施設の説明と併せ、同社が外部コンサルティング機関と実施した KAP (Knowledge, Attitudes and Practices Study(KAP) Study や同氏の資料及び、Health Science Authority が発行している The Big Blood Picture という年次のレポートなどをもとにシンガポールの献血事業の説明を受けた。また、Web サイトなどのインターネットを利用した施設紹介や SNS 等を活用した献血者獲得に向けたシンガポール赤十字社ならではの取り組みを紹介していただいた。今回の見学では各献血センターの献血戦略やそのメディア広報方針だけでなく、特に Web を活用した SNS やモバイルアプリケーションによるシンガポール赤十字社独自の方向性などが見えてきた。

研究結果

①シンガポール赤十字社 (Singapore Red Cross) の概要

シンガポール赤十字社 (略称: SRC) においてシンガポールにおける赤十字活動は 1949 年 9 月 30 日、英国赤十字社の一環として始まった。シンガポール赤十字 (SRC) は、1973 年 4 月 6 日に議会法で採択されて今に至っている。事業としては障害者のためのホームの運営、非緊急救急車サービス、全国献血者募集プログラム、災害準備と管理、応急手当のトレーニング & カバレッジ、青少年ボランティア、国際救援などを行っ

ている。

下記の4か所に献血センターは分かれており、それぞれ運営曜日も異なっている(図1)。また、それぞれの献血センターは対象者の違いがある。例えばオフィス街を対象にした戦略やショッピングモールを対象にしたものなど、それぞれ異なった戦略で運営をしている。

それぞれの献血センターの概要は、下記のとおりである。

(ア) Bloodbank@HSA (今回ヒアリングで訪問した施設)

所在地：11 Outram Road Health Sciences

Authority, Singapore 169078

(Outram Park MRT Station の向い)



シンガポール赤十字社血液センターが入るHSA (Health Science Authority) ビル



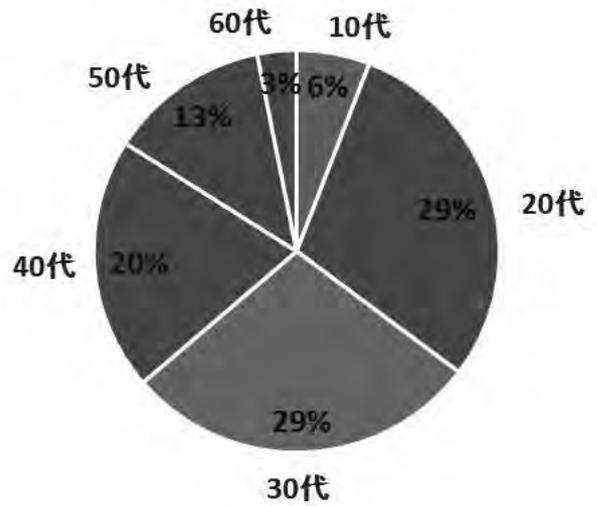
シンガポール赤十字社血液センター

駅から通路を渡っていくことが出来る。HSA 周辺にはがんセンターをはじめとした医療機関や病院施設がまとまって存在している。

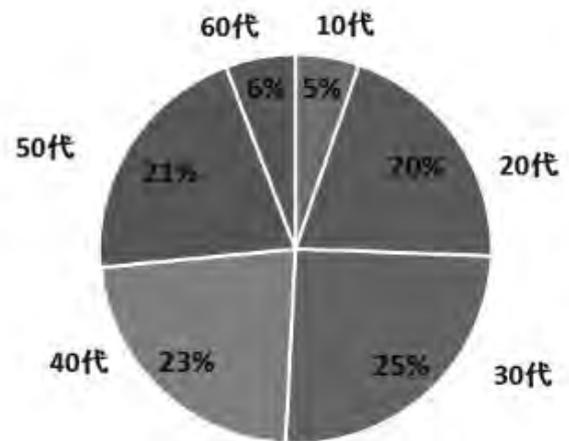
(ア) Bloodbank@Westgate Tower

(イ) Bloodbank@Dhoby Ghaut

(ウ) Bloodbank@Woodlands



シンガポールのドナーの年齢構成



日本のドナーの年齢構成

Donate at your nearest bloodbank today.
60 minutes of your time can save 3 lives.



Bloodbank@HSA

(Opposite Outram Park MRT Station)

11 Outram Road
Health Sciences Authority,
Singapore 169078

[Route Map](#)

Opening hours

Tuesday to Thursday: 9am to 6.30pm
Friday: 9am to 8pm
Saturday: 9am to 4.30pm
Sunday: 9am to 2pm
Chinese New Year Eve, Christmas Eve
and New Year's Eve: 9am to 2pm

Bloodbank@Woodlands

(Opposite Causeway Point)
Woodlands Civic Centre
900 South Woodlands Drive
#05-07 Singapore 730900

[Route Map](#)

Opening hours

Monday, Wednesday to Friday:
12pm to 8pm
Saturday, Sunday: 10am to 5pm
Chinese New Year Eve, Christmas Eve
and New Year's Eve: 9am to 2pm
Closed on Tuesday and Public Holidays

Bloodbank@Dhoby Ghaut

Dhoby Xchange (Near Exit B)
#B1-05 to B1-10
11 Orchard Road
Singapore 238826

[Route Map](#)

Opening hours

Monday to Wednesday, Friday:
12pm to 8pm
Saturday, Sunday: 10am to 5pm
Chinese New Year Eve, Christmas Eve
and New Year's Eve: 9am to 2pm
Closed on Thursday and Public Holidays

Bloodbank@Westgate Tower

(Jurong East MRT Station, Exit D, walk through Westgate Mall)
1 Gateway Drive, #10-01 to 05,
Singapore 608531

[Route Map](#)

Opening hours

Monday to Friday: 12pm to 8pm
Saturday: 10am to 5pm
Chinese New Year Eve, Christmas Eve
and New Year's Eve: 9am to 2pm
Closed on Sunday* and Public Holidays

*From 1 Jan 2016 onwards

図1 シンガポール赤十字社各血液バンクの所在地とその開設時間

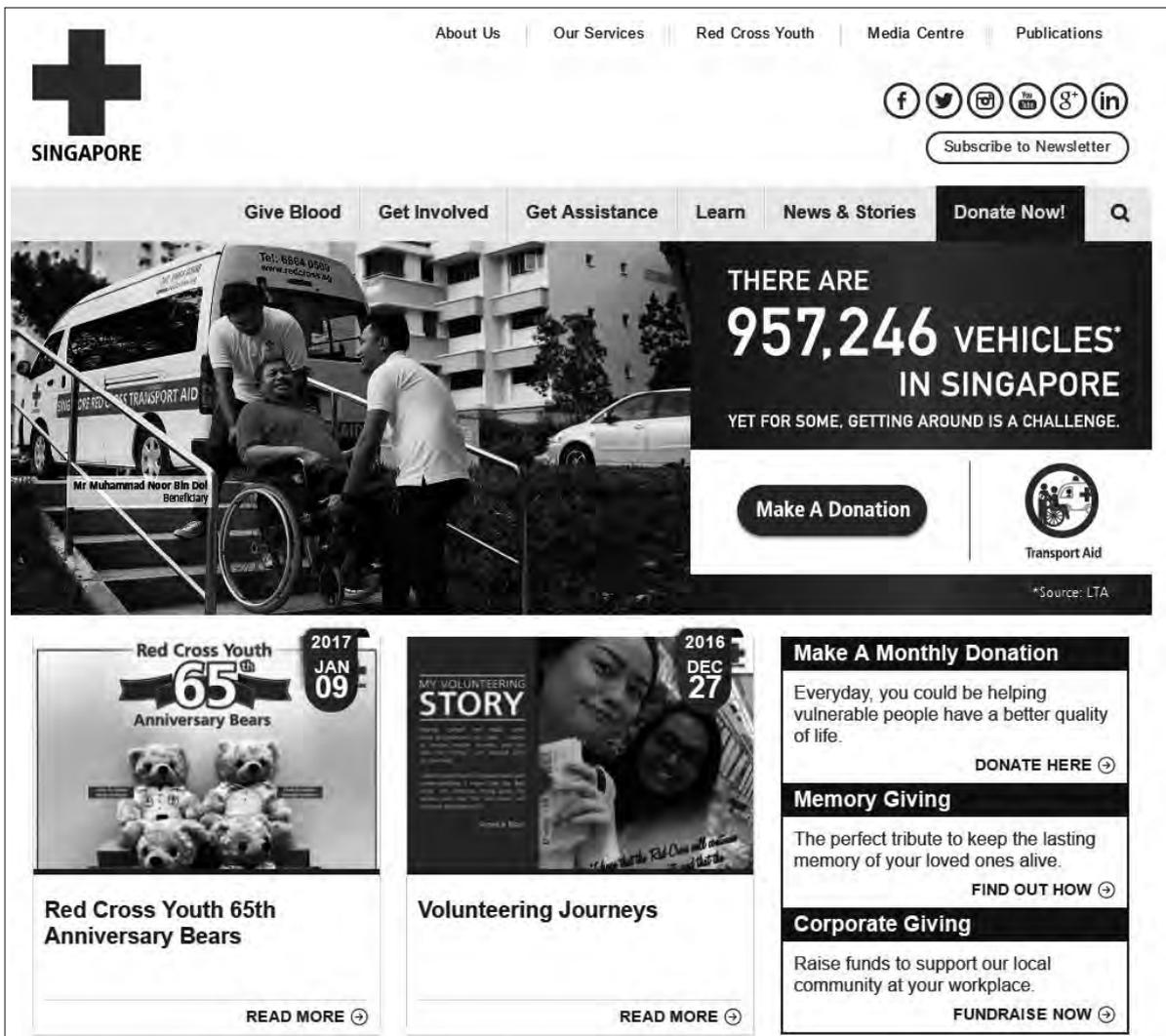


図2 シンガポール赤十字ウェブサイトトップページ (https://www.redcross.sg/)

②広報体制について

* SNS の活用

シンガポール赤十字では効果的に SNS を活用している。

Webサイトのトップページにもリンクがあるが、活用している Web コミュニケーション媒体として、SNS では Facebook、Twitter、Instagram、You tube、Google+、Linkedin を使用しており、併せて Web と Newsletter により情報配信を行っている (図 2、3)。また、前項図 2 からわかるように、SNS リンクをトップページの右上に配置しており、SNS を有効活用する戦略をとっていることがわかる。日本赤十字社の Web サイト (図 4) と比較すると、日本赤十字社では、SNS はサイト底部にあるのでサイト構造上 SNS などの外部メディアリンクへのアクセスは少なくなる。

それぞれの戦略の違いではあるが、SNS をはじめとした外部メディア活用のポテンシャルは高いといえる。また、アクセス先は Facebook、Instagram、You tube、Twitter ではすべて @sgredcross と統一されており、SNS ブランディングがなされている。



図3 シンガポール赤十字サイトトップページの外部メディアリンク部分。アイコンでリンクが視覚化されている。



図4 日本赤十字社サイトトップページの外部メディアリンク部分。各リンクの内容が見られるようになっており、Facebook, Twitter, You tube がサイト下部に設置されている。

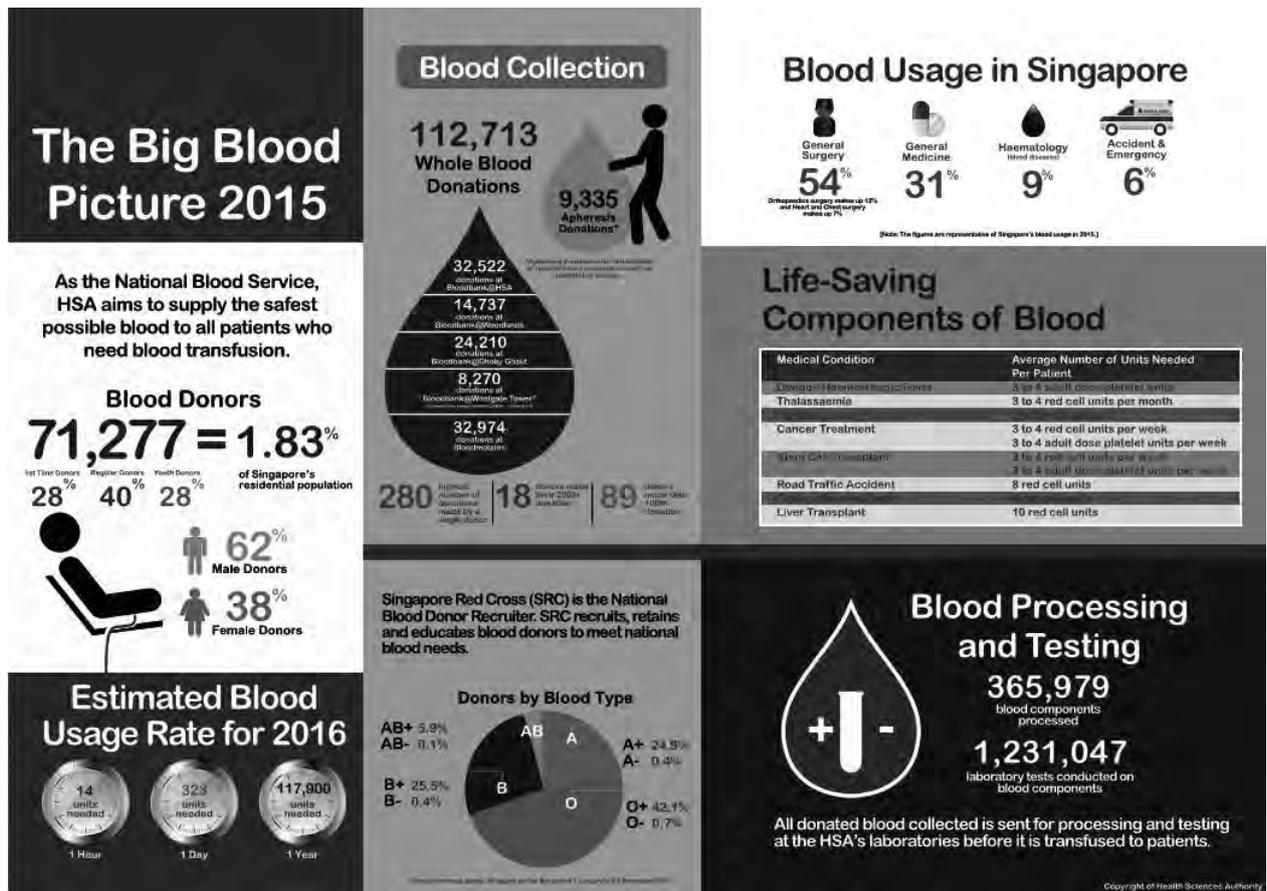


図5 シンガポール赤十字社で発行する The Big Blood Picture 2015。視覚的に情報がわかるようにインフォグラフィックが活用されている。

また、特徴的なところでは、動画 SNS、You tube において、シンガポール赤十字社で独自に作成した動画だけでなく、シンガポールで活躍する有名 You tuber 達を活用し若者向けに動画配信を行っており、この点でも SNS の特性をうまく活用した広報戦略をとっているといえる。

***簡易レポートの発行**

The Big Blood Picture という発行資料を利用し、献血の現状を視覚化した、簡潔に表現した資料を発行することで、献血者の理解を図るとともに、献血の推進を行っている。

***キャラクター利用**

献血推進にあたり、日本の“献血ちゃん”のような、キャラクターを通じた効果的広報が行われている。セールスプロモーションツールとしてボールペンや、ぬいぐるみ、献血者向けにくばられる、献血時に握るリラククスキャラクターツールなど幅広くキャラクターグッズを活用している。



シンガポール赤十字社キャラクターグッズ例 1



シンガポール赤十字社キャラクターグッズ例 2



連絡先が表示されたキャラクターグッズ



ショーケースに飾られた各種謝礼品

③マーケティングについて

今回インタビューに際し、シンガポール赤十字社の献血者推進プログラム（Singapore Red Cross Blood Donor Recruitment Program）のヘッド ROBERT TEO 氏より説明いただいた資料でも利用されていたが、シンガポール赤十字社は現地のマーケティング会社、Kadence 社を活用し Knowledge, Attitudes and Practices Study（図 5）という形でマーケティングと効果測定を行っていた。シンガポール国民は、中国系、インド系、マレー系人種に大きく大別されるが各ドナーの比率は中国系 74%、インド系 12%、マレー系 9%（図 8）であるなど多岐にわたった定量評価がなされていた。



図 6 シンガポール赤十字社プレゼンテーション資料。Kadence 社のリサーチ・マーケティングを活用している



図 7 シンガポール赤十字社プレゼンテーション資料よりリサーチ目的。知識と認知要因、比較、影響するファクター、比較、献血の重要性についての目的でリサーチがなされていた。

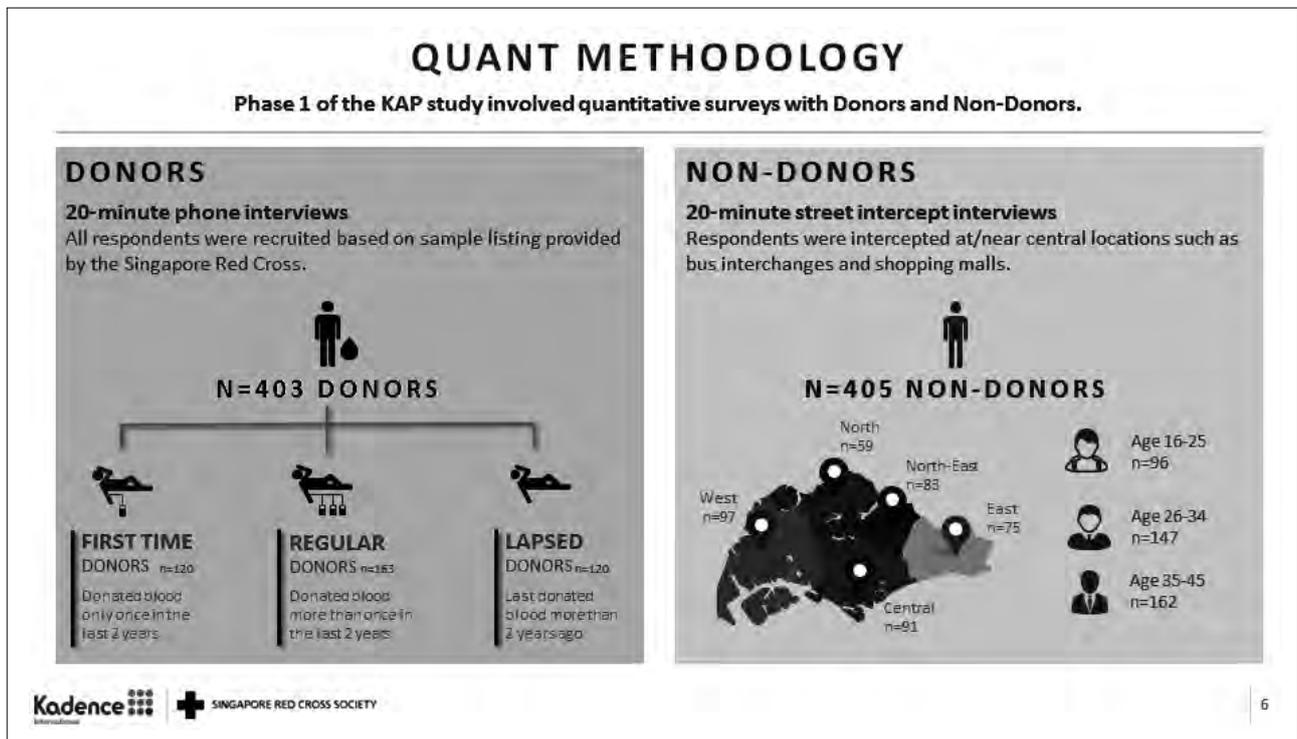


図 8 シンガポール赤十字社プレゼンテーション資料より調査定量化方法。403 人のドナーと、405 人の非ドナーについて各観点から比較がなされていた。

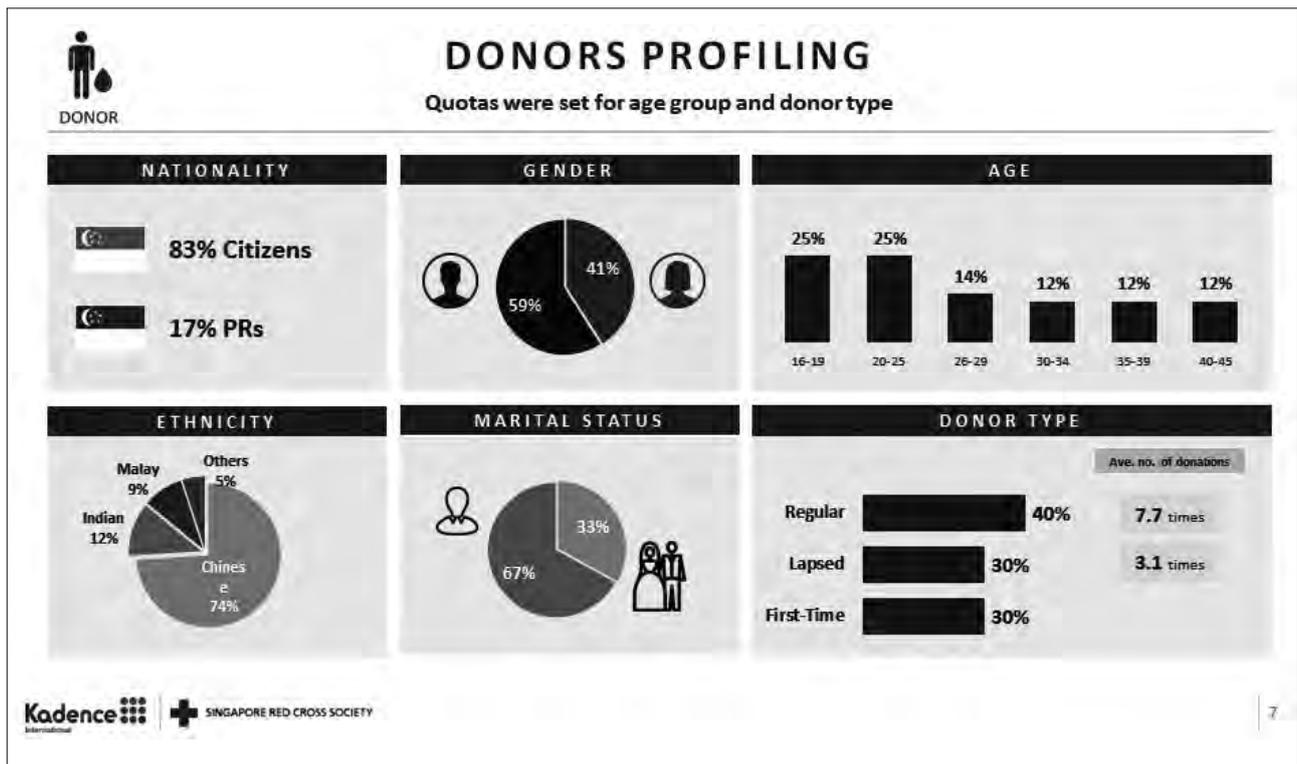


図 9 ドナーのプロファイリング。献血者は、中国系 74%、インド系 12%、マレー系 9%およびその他など、シンガポールの国民性をそのまま反映している

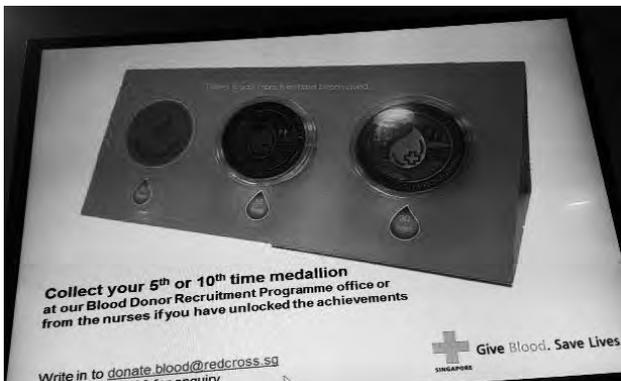
④その他献血推進の工夫

*献血推進用記念品の贈呈

献血推進者表彰や誕生日にグッズを送り誕生日献血を推進するなどの工夫をすることで、献血者の意識向上につなげている。献血5回目、10回目、そして15回目などの節目にメダルが授与されている。



献血の回数によってメダルが授与される。



入り口のディスプレイにもメダルが映し出される。



待合室に映し出されるメダル受賞者の名前。

Champion of Champions				
Rank	Name	Donations	Donated Since	Awards
1st	IAN TAN TENG	156	22/1981	Champion of Champions
2nd	LIM PECK BENG LAWRENCE	156	5/21/1983	Champion of Champions
3rd	TAN LYE HUA	156	26/11/1986	Champion of Champions
4th	LAY KONG CHENG ANTHONY	156	21/25/1985	Champion of Champions
5th	KIM BARREL	155	24/11/1989	Champion of Champions
6th	LOH JAY KWOK	150	31/3/1989	Champion of Champions
7th	NEUBRONNER COHN MARILYN	155	26/4/1977	Champion of Champions
8th	THAN TEOH HUI	155	4/7/2002	Champion of Champions
9th	WONG CHEE TONG JOSEPH	150	28/05/1978	Champion of Champions
10th	YAM HONG LING	154	8/12/1985	Champion of Champions
11th	LIM BUAN HUA	151	24/11/1972	Champion of Champions
12th	LIM POI TENG	151	21/11/1977	Champion of Champions
13th	WONG SEW WAH	151	15/2/1979	Champion of Champions
14th	LEE CHIH CHOON	153	29/2/1980	Champion of Champions
15th	SIEW CHEE HONG	153	1/07/1983	Champion of Champions
16th	TAN GIVE EIVE	153	17/8/1988	Champion of Champions

最優秀メダルを獲得したドナー名

*アプリケーション利用

また、説明によると Web によってインタラクティブにしているのと併せてスマートフォン端末を対象としたアプリケーション (iPhone, Android) によってどのくらいの血液が不足しているかなどを迅速に伝えるなどの試みもしており、これは 10,000 人がダウンロードしているとのことである。

*デジタルサイネージ利用

献血センターにはデジタルサイネージが用意されており、画面上入力で個人のマイルストーンをその場で見ることができる。



デジタルサイネージ

*活動日の工夫

日ごろ通勤で忙しい若者も週末は、ゆっくりと時間が取れる。そこで献血ルームは、金曜は夜8時までオープンし、土日もオープンしている。



週末も採血活動を行っている。

*市民に対する献血教育

シンガポールでは、オープンハウスを土曜日に開いて、市民の憩いの場を提供している。そこでは手芸の講習会が開かれたり、献血についての教育ビデオが上映されたりしており、幼児向けにキャラクターとの写真撮影会も行われている。

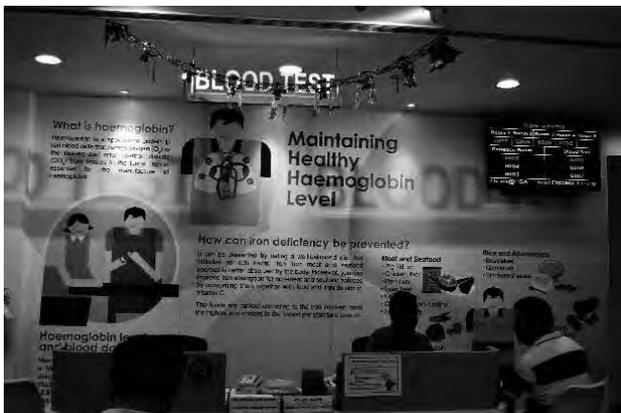


市民や子供に対する献血教育活動も活発。

また、血液センターの見学ツアーも行われており、各種団体を受け入れている。



見学者に説明する職員



献血ルームの壁には、献血に理解を促す説明が。



成分献血をする若者たち。



調査にご協力いただいたロバートさん右端。

考察

シンガポールは他の国と比べ国土も小さく、国民の構成に特色のある国である。そのため ICT や経済力など国のもつメリットを生かし人種差などを考えて総合的な戦略をとっている。少子高齢化が進むわが国にとって若年層の献血離れを抑制し、献血率を上げていくために、若者対策に秀でたこの国の戦略を参考にすることは非常に効果的な方法であろう。中でも今日若者の日常に溶け込んでいる SNS をうまく利用し効率的な献血推進活動を展開している点は興味深く、高く評価される。今後、わが国においてもそれらを利用した戦略の必要性は益々高まりそうだ。柔軟な発想で、若者の感覚に即した献血推進活動を期待したい。

結論

今後、わが国でも益々 ICT 化やデジタル化は進んでいくことが予測される。そのような分野で一步先を行く若者の国シンガポールの戦略を献血推進にうまく生かし、若者の献血離れに少しでも歯止めがかかることを願っている。

謝辞

今回の資料を作成するにあたり、資料の提供や施設の紹介をいただいた ROBERT TEO 氏ならびに、シンガポール赤十字社 Bloodbank@HSA の施設の方々をはじめとご協力いただいた方に謝辞を申し上げたい。

ROBERT TEO 氏

Head of Singapore Red Cross Blood Donor Recruitment Program

参考資料

(1). 一般資料

-1. Knowledge, Attitudes and Practices Study (KAP) study Presentation by Kadence International (SINGAPORE RED CROSS SOCIETY

-2.DONOR HEALTH ASSESMENT QUESTIONNAIRE and DECLARATION FORM

(2). オンライン資料

-1. 日本国外務省シンガポール共和国 (Republic of Singapore) 基礎データ

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/singapore/data.html>

-2.Facebook 資料

<https://www.facebook.com/sgredcross>

-3. リサーチ会社 Kadence 社

<https://www.kadence.com/>

-4.Bloodbank @ HSA

http://www.hsa.gov.sg/content/hsa/en/Blood_Services/Blood_Donation/Where_to_Donate/Bloodbank_HSA.html

-5. シンガポール赤十字社各血液バンクの所在地

<http://connect.redcross.sg/where-to-do>

nate

健康危険情報

該当なし

研究発表

1. Hyun Woonkwan, Kawahara Kazuo, Yokota Miyuki, Miyoshi Sotaro, Nakajima Kazunori, Matsuzaki Koji, Sugawa Makiko. The Possibility of Increasing the Current Maximum Volume of Platelet Apheresis Donation. Journal of Medical and Dental Sciences. (Accepted)

知的財産権の出願・取得状況（予定を含む）

該当なし